



コロナ禍での自己研鑽

会員の皆さんは令和2年度どのように自己研鑽されていたでしょうか。今回は、秋田県社会福祉士会生涯研修センタースーパービジョン部会長である伊藤政利さんにお話を伺いました。

(取材日令和3年2月中旬)

Q1・秋田県社会福祉士会ではコロナ禍において、専門職の育成及び学びの機会をどのように提供していますか？

A・令和2年度は、残念ながら基礎研修Ⅰ～Ⅲを始め、成年後見人材育成研修など、ほとんどの研修事業が中止になってしまいとても残念に思うとともに、会員の皆さんにも申し訳なく思っています。

ただ、社会福祉士同士が1対1で行うスーパービジョンについては、7名の会員が4名のスーパーバイザーと各6回にわたるスーパービジョンに取り組んでいます。

Q2・今後どのように工夫し、学びの取り組みを推進していきたいか教えてください。

A・令和3年度は、基礎研修Ⅰ～Ⅲを行いたいと検討しています。生涯研修委員会において次年度へ向け準備を行いますので、ぜひご参加ください。



インタビューの様子

今後は他の委員会とも連携しながら、オンラインによる研修実施体制を強化していきたいと考えています。また、個別スーパービジョンについては、その意義を発信することに努めたいと考えています。会員同士が支えあう中でスーパーバイザーとスーパーバイザーとがお互いにスキルを向上させていくことができるよう、引き続き実施件数を増やしていきたいと考えます。

<発行>
一般社団法人
秋田県社会福祉士会
<発行責任者> 和田 士郎
<事務局>
秋田市旭北栄町1-5
(秋田県社会福祉会館内)
<TEL>
018-896-7881
<FAX>
018-896-7882
<MAIL>
akitaken-csw@flute.ocn.ne.jp
<URL>
<http://www.akita-csw.org/>
編集 広報委員会

- ・ コロナ禍での自己研鑽
- ・ スーパービジョンについて
- ・ 研修報告
- ・ 職場紹介
- ・ 広報委員会より
- ・ ペンリレー

Q3・コロナ禍においてどのように専門性を高めていますか？個人学習として実践していることを教えてください。

A・個人的には今年度は自己研鑽の機会は少なかったように思います。

私が心掛けていることは、書籍の購読や研修参加等「自分に投資する」ということです。必ずしも社会福祉専門領域に限定せず、周辺領域を含め幅広く学んだほうが、新たな発見があるように思います。

コロナ禍において、オンラインによる研修などの機会も多くなっていることは、遠方の研修の受講が可能になると前向きに捉えています。

Q4・職場で実践していることを教えてください。

A・私が勤める法人では「共生・協働・自律」の理念のもと、キャリアパス段階に応じた研修体制を検討してきました。

今年度は、キャリアステップに応じ管理職、監督職、指導職という階層を横断的にグループ編成し、グループスーパービジョンを行っている

ます。
私は、管理職グループに対するスーパーバイザーとして、管理職が抱える業務上の悩みを共に考え、スキルアップにつながるよう活動しました。



会議でのあいさつの様子

風通しの良い職場、助け合える職場、高め合える職場を目指し、縦のライン、横のラインともにより相談しあえる

るようになればと願っています。
Q5・その他、おすすめの学習方法があれば教えてください。

A・おすすめですか？(笑) 私にも教えてください(笑)。ただ、学習方法はどうであれ、学びの場でインプットしたことを、実践の場でアウトプットする機会をつくるのが大切なのではないでしょうか。いかにして自分自身の内面にスキルとして定着させられるか。「アウトプット↓振り返り↓インプット」という流れを作るには、スーパービジョンはおすすめの学習方法と言えると思います。

(聞き手…広報委員会 市村めぐみ)

スーパービジョンについて

専門職が専門職の成長過程に関わる

あたり前の仕組み

安達 隆

専門職が後進育成に関与することは、医療や教育の世界ではあたり前のことです。一方、社会福祉士は一人職場も多く、職場組織の中で十分に研修や訓練の機会を持っていない特殊な事情があります。本会のスーパービジョンはこのような課題を解決する一つの選択肢です。

スーパービジョンで最も大事なことはバイジー自身の問題意識です。バイジーの役割は、バイジーの問題意識に関心を寄せ、問答を通してより良く理解すると共にその過程でバイジーの気づきを促し、成長過程に寄り添うことです。

登録しているバイザーはそれぞれ各分野で豊富な経験を有しており、バイジーのニーズに応えられる体制となっています。コロナ禍でも安心して取り組めるよう、これまで認められなかったリモートでのスーパービジョンも現在は認められています。認定社会福祉士を目指すもよし、自律的にキャリアをデザインするもよし、本会のスーパービジョンに興味を持っていただければ幸いです。

研修報告

生活環境の変化とオンライン研修

藤井 陽香

新型コロナウイルス感染が全世界で急速に広まり、外出時にはマスクの着用が当たり前になったり、建物の入り口には消毒用アルコールと非接触型の体温測定器が設置されていたりと私たちの生活環境は大きく変化しました。

そうした変化の中で大きく変わったと感じたものは研修形態です。これまでは、年に数回県外で研修受講の機会がありましたが、昨年春の緊急事態宣言以降、県外研修はなくなり、新たにオンライン研修に参加する機会が増えました。そのうちの一つを受講して感じたことを紹介したいと思います。

昨年十一月、成年後見制度利用促進体制整備研修を三日間Zoomによるライブ配信で受講しました。参加者は行政や社協、第三者後見を担っている専門職など成年後見制度に携わる担当者でした。ライブ配信のため、グループワークの演習が多くあり、職場にいなから全国各地の方々と意見交換をすることができ、オンライン研修のすばらしさを実感しました。

現地に行かなくても、リアルタイムで参加

者同士が時間を共有し、顔の見える関係を構築できるオンライン研修はコロナ禍での良い変化だと実感し、今後の業務でも積極的に活用していきたいと思えます。



令和 2 年度、秋田県社会福祉士会では、基礎研修が中止になりましたが、新潟県社会福祉士会ではオンラインで実施されました。今回は会員の石橋祐人さんに受講した感想について寄稿して頂きました。

新潟県社会福祉士会から

〈オンライン基礎研修を受講して〉



新潟県社会福祉士会

石橋 祐人

デジタル社会が謳われている中で、アナログ人間を自認する私が果たしてオンライン研修を無事に受講できるか不安もありましたが、スタッフの方々のフォローアップもあり、杞憂に終わりました。(それでもパソコンに内蔵されているカメラの存在に気付くまで時間を要しましたが)

受講してみたの率直な感想は『手軽で便利』ということでした。これまでも研修となると遠方まで時間とお金と体力を費やす必要がありました(我が新潟県は都道府県面積全国第 5 位、ちなみに秋田県は第 6 位!) 手軽に「つながる」ことができました。ただその一方で、講師への(ちよつとした)質問や同じ聴講生との(ちよつとした)雑談に難しさを感じたりもしました。手軽に「つながる」ことができる時代が到来したことを実感する一方で、やはり直接会わないと通じ合えないことがあることにも気づかされました。

職場紹介

コロナ禍における取組について



社会福祉法人花輪ふくし会
多機能型事業所ばすてる
指導係長
工藤 政邦

瞬く間に生活様式を一変させた新型コロナウイルスの拡大は、皆さんの事業所においても予防に向けての取り組みなど、日々大変な思いをしていると思います。幸いにも事業所のある大館市においては、大きな流行はないものの、いつ発生するかと気の抜けない状況

ではあります。

放課後等デイサービスを行っている当事業所では、日常的な「標準的予防」を徹底して行っています。看護師主導のもと、春から研修や日々の声掛け等を実施し、手洗い・手指の消毒・マスクの着用といった基本動作の確実な実施に取り組んでいます。

この状況下、感染症予防だから仕方ないと、子どもたちが過ごす環境やリズムを変えたり制限することは、成長を促すための機能や機会を損なうのではと考えています。感染の予防と、子どもたちの成長を促す両輪を回していくために、それぞれの役割をしっかりと行うことが大切であると考えます。私たちスタッフは、標準的予防を確実に実施し、事業所内にウイルスを持ち込まないことを徹底して子どもたちを守り、子どもたちは元気にたくさん遊んでウイルスに負けない抵抗力のある体を作っていくことではないかと思えます。

先が見えない不安もありますが、明けない夜はないと信じ、子どもたちと一緒にこの現状を乗り越えていきたいと思えます。

◎秋田県社会福祉士会ホームページでは、「各種研修、講座情報」を掲載しています。また、日本社会福祉士会ホームページでも、研修についてのコンテンツを掲載しています。

ペンリレー 「十五年目の抱負」

合同会社びりーぶ ケアプランセンターひばり

佐藤 舞子



いつも大変お世話になっている佐々木施設長からバトンを受け取りました。

何を書こうかとても迷いましたが、まあ無難に、今年の抱負でも書こうかなと思います。

私は今年、社会福祉士取得十五年目を迎えます。障がい者支援施設の生活支援員としてスタートした仕事も、地域包括支援センターの社会福祉士、介護支援専門員を経て現在は居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員をしています。

社会福祉士会でも様々な学びの機会や活動に参加させていただき、高齢分野の認定社中を追いかける、精一杯ついていく日々を過ごしてきましたが、よく考えたらもうとつくに中堅、年齢も四十七歳が近づいていたことに気づきました。

そんな私の今年十五年目の抱負ですが、これからはもっと冷静に、ひとつひとつの実践にエビデンスを持って、そして前もって準備をし、取り組めるようにしていきたいと思っています。落ち着きのない、いつも後手後手な自分からの脱却を目指していかなければ、と思っています。

直近の課題はオンライン研修に不慣れなこと。受講する環境はだいぶ整えられてきましたが、研修の企画運営となることまだまだです。

令和二年度は自粛モードで、私自身活動休止状態でしたが、十五年目の今年は休んだ分を取り返すべく準備をし、積極的に活動していければと思います。

次は、同い年で、とつてもアクティブな、私が尊敬している秋田県北児童相談所児童福祉司の猪又美奈子さんへバトンを渡します。



編集後記

秋田県プレミアム宿泊券を購入していましたが、中々利用できずにはいきました。気が付いたら期限が迫っており、慌てて利用しました。

コロナ禍での旅行は不安もありましたが、各ホテルでの取り組みもあり安心して宿泊する事ができました。県内も普段行かないようなところがたくさんあったので、新しい発見にもつながり、楽しく過ごす事ができました。

令和二年度は研修が殆どなく紹介できるものが少なかったためページ数を減らしての発行となりました。今回は新潟県の方にもお話を伺うなど、いつもと違う取組を行いましたので楽しんでいただければと思います。